

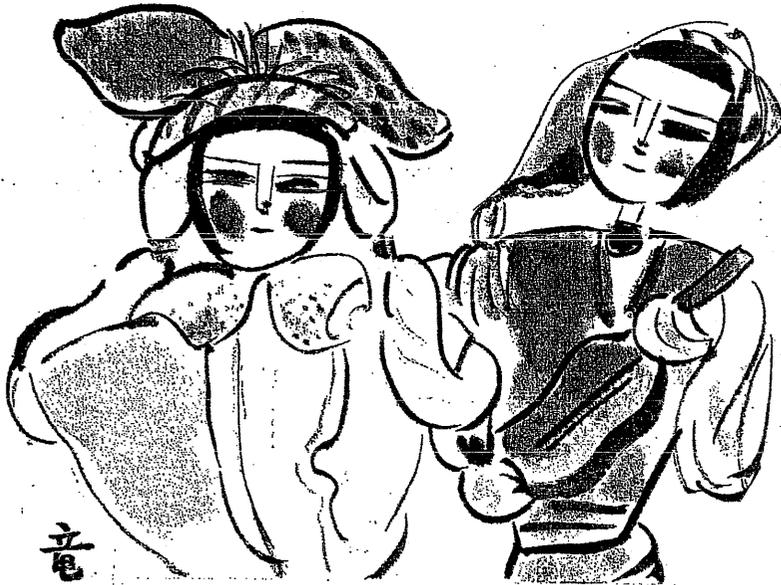
オリーブの樹

第111号

2012年5月13日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



5・30 君ら ますます
若やいで
我一歩すす
老の道ゆく

目次

- P 2 3月4月の歌 重信房子
- P 3 5・30リッダ闘争40年目に 重信房子
- P 5 独居より 重信房子
- P 14 アラブ物語 (19) シンガポール・クウェート作戦の時代 (5) /ステーションとしての党ヘーヨーロッパを戦場とした誤り (1)
重信房子

重信房子さんを支える会

三月四月の歌

重信 房子

白梅の咲き初む夜に獄窓を静かに開きて香りを捜す

リハビリの一步一步と足下に色鮮やかなシクラメン咲く

春嵐激しくなればなおさらに土地の今日のパレスチナの声

何度でも窓辺に歩み確かめむ桜咲きたり獄八王寺

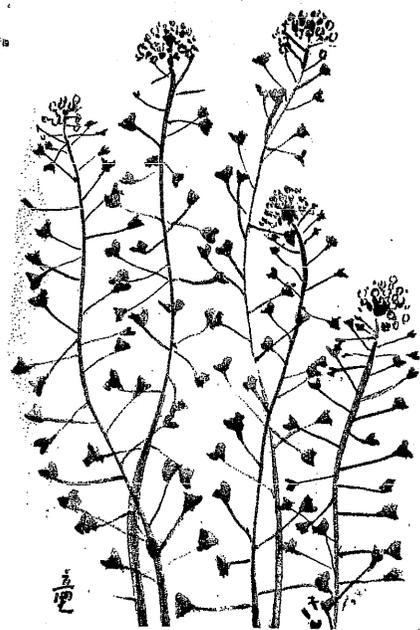
花吹雪光を浴びて妖精のごとく踊りて我が髪飾る

南風激しく真夜の窓叩く目覚めた先に下弦の月燃ゆ

花吹雪みちのくの海花筏万の魂魄帰り給うか

銃口に全実存をかけ給う聖なる欲望双眼に据え

硝煙の匂い残れる草原に黄蝶翔びたち君は駆け行く



★★★ 5・30リッパ闘争40年目に ★★★

「僕たちの後にあの裸足の子供たちが銃を取って続くのがわかる」「もう思い残すことは何もない。ただ一つ心残りなのは、裸足で走り回っていた子供たちにさよならの挨拶ができなかったことだな」そう言いながらリッパ闘争に旅立っていった仲間たち、バーシム奥平、サラハ安田、アハマッド岡本。今、アラブ各地で湧き起こる変革を求める声が40年前のリッパ闘争時代の咆哮と重なります。「パレスチナ全土解放!」「民主パレスチナ国家の建設を!」

あの頃のパレスチナ解放闘争は、アラブ各地の民衆の願いと意志を結集し実現する誓でした。民衆の意志を汲み、批判の自由の中で激論し行動したPLO・パレスチナ解放機構。アラブ各国の人々が協同し参加し、政権の側ではなく、アラブ民衆の願いを托しうる唯一の存在として、PLOの下パレスチナ解放勢力は時代の輝く誓だったのです。あの時代からアラブ諸国政府はこうした民衆の誓を恐れ、反イスラエルという立場ながら、封建王政のまま民衆の政治的自由を抑圧していました。

また、イスラエルとの戦争の継続は軍事独裁政権を育て、その権力の都合による民衆弾圧もありました。ヨルダン王政は米国、イスラエルと密かに共同してパレスチナの領土の一部を併合し、パレスチナの代表権を奪奪し、それに抗議するパレスチナ解放勢力を弾圧し、70年ヨルダンの内戦に至りました。それ以降、パレスチナ解放勢力の中に二つの潮流が生まれました。「反イスラエル・反シオニズム」の下に、アラブの政権とも協調していこうとするファタハ・アラファト勢力と、あくまでも「反帝・反シオニズム・反イスラエル・反アラブ反動」の人民革命を訴えるPFLPらを中心とした勢力です。

リッパ闘争は、そうした時代の民衆の非妥協な意志を示す闘いとして、PFLPの指揮の下に闘われました。あれからバーシム奥平たちが言っていたように、彼らの後に続いてあの裸足の子供たちは、パレスチナの祖国で、また難民キャンプから銃を取ってあるいは石礫を持って闘い続けてきました。それでもパレスチナは公正な平和を渴望しながら、今も闘いの途上にあります。

74年PLOの国連への登場、78年米国の支援と引きかえにアラブで初めてイスラエルと国交を開いたエジプト・サダト大統領、ベイルートまでイスラエル軍が侵略してPLOを追放した82年、東欧崩壊の89年からソ連崩壊と湾岸戦争、さらには87年から果敢に闘い抜かれたイスラエル占領下のインティファダ・パレスチナ民衆蜂起。そうした時代の変化の中、PLOのアラファト指導部はイスラエルと秘密交渉によって「オスロ合意」に至りました。この秘密合意からパレスチナは分裂と混迷の道に入ってしまいました。PLO内部からの「オスロ合意反対」の声ばかりか、インティファダの闘いから生まれたイスラム組織「ハマス」も反対を訴えました。PFLPは「オスロ合意はインティファダを止めさせ、パレスチナに分裂を持ち込むものだ」と批判しました。エドワード・サイードもまた、PLOを認めさせるのと引きかえにパレスチナ解放を売り渡し、イスラエルに「正当性」を与えるものだと非難しました。

以来アメリカの後ろ楯のもとで、『自治区』返還』や和平交渉がくり返されながら、パレスチナはますます厳しい条件を強いられてきました。イスラエルはユダヤ人入植地をますます拡大し、分離壁を築き、東エルサレムも占領し、なんら妥協の考えがないばかりか、ユダヤ資本とユダヤ人票に左右

されたアメリカ大統領と議会は、イスラエルの絶対的支持に終始しているためです。かつて民衆を代表していたファタハは、自治政府権力を維持するために米国やイスラエルの要求を受け入れざるを得ない立場に置かれ、汚職や利権に走る者も多く、政権をハマスにとってかえられる事態に直面し、以来、ファタハとハマスの対立が続きました。PFLPはパレスチナ勢力の対立に反対して、一貫して解放勢力の統一とその政治綱領、PLO改革を訴えてきました。

チュニスの青年の決死の抗議をきっかけとして、アラブ民衆の革命は全アラブに広がり、尊厳ある人間として生きていく意志を命をかけて示しています。パレスチナの対立にも介入したように、米欧勢力は「アラブの春」などと民衆決起をほめそやし、自らの石油利権やイスラエルに有利な影響力を行使するために介入しては混乱を作り出しています。また、かつてより最も反動的なサウジアラビア、ヨルダン王政らスンニ派権力は、各国の民衆革命に宗派的に介入し、民衆をミスリードし、スンニ派シーア派の対立を煽っています。しかし、かつて民衆の希望のさきがけであったパレスチナも「アラブの春」の民衆と一つに連なり、イスラエルや米国の厳しい差別と弾圧の中、パレスチナ統一へと歩み始めています。かつて民主パレスチナ建国を目指した、自由、公正、透明性ある民主制度へと汚職や利権や権威主義の自治政府にかわる再生を求めています。

PLOを改革し、世界に散っている何百万の難民の意志を代表するパレスチナ国会たるPNCを最高意志決定機関として機能させ、国民投票によってパレスチナの未来——パレスチナの領土、国境、帰還の権利を含む——を明確に決定すべきなのです。自治政府は自治政府の役割を負い、自治政府とPLOを兼務して交渉するファタハの一存で決めてはならないのです。それが「オスロ秘密合意」とそれ以降の混乱を正す教訓でもあります。

かつて「主要闘争形態は武装闘争」とうたったPLO憲章のリッダ闘争の時代を引き継いで、今、パレスチナは公正なパレスチナ国家建設を求める政治闘争を主要闘争形態とする闘いが続いています。リッダ闘争を闘ったPFLPらパレスチナの友人たちは、イスラエルの利益のみを保護する米国の二重基準に抗し、アラブ民衆と連動し、世界の公正を求める人々と結び合って、その過酷な闘いの先頭で闘っています。この闘いは日本の脱原発を要とする日本の変革の願いとも繋がるができます。

リッダ闘争から40年目の今日、私もまた、世界の人々と共に、新しい時代の闘いを共にする一人でありたいと心から願いつつ、再びパレスチナ連帯！アラブ民衆に連帯！そして、バーシム奥平、サラハ安田、オリード山田に続いたアサド日高、ユセフ檜森、ニザール丸岡や、パレスチナの、日本・世界の先達者たちを心に刻みながら40年目の祭を共に！

5月1日記

房子

蛭居ゆい 3月13日~5月7日

友人たちお便りに感謝。返事出せないでごめんなさい

重信 房子

(3月5日に手術。お腹を開けてみたらCTに写っていた「卵巣嚢腫」と思われたものは「腸間膜腫瘍」で、子宮ガン共々小腸も摘出しました。(以上前号))

3月13日 春のような陽がそそぎ、春は近いでしょう。八王子はまだ最高9℃最低-1℃の寒さです。

今朝から水分をとってよいと言われていてお茶を飲みはじめました。栄養パックの点滴液が午後終了したら、点滴CVポートからの補給は終了と言われました。昼食からは、3分かゆ、梅びしお8g、ジェリーあずき味150cal、アジノモト濃縮栄養ドリンク「メディエフ」200cal、ヨーグルトフルーツサラダ、ひき肉野菜すいとん込みスープと案外多彩。おかげはおいしく食べましたが他は少々。

午後3時過ぎ診察室へ。外科医がCVポート(鎖骨下)に差し込んだ点滴針を抜いてくれて、身体が自由になりました。まだ入浴は不可だが、ベランダをゆっくり歩くのはOKとのこと、TV観賞も許可。今週の16日(金)に残りの抜糸をすと言われました。診察室からは自由な身体で房に戻りました。

夜、初の便通。もう一段落の体調です。

3月14日 朝ベランダ。思わず声をあげる美しいシクラメンの花々！「ね！きれいでしょ？」みんなもニコリ。運動に出られなかった私をねぎらってくれます。四角のプランターに真紅と薄いピンクの元気なシクラメン5株、もう一つには赤紫のシクラメンが6株、さらに円形のプランターにはまん中に白、まわりに12株のさまざまなシクラメン！見ているだけで元気が出そう。それに葉ボタンが1本ずつ入ったのが3株、三色スミレ1株プランターと、八王子園芸部大奮発です。花を喜んでいる女区の人たちの期待にはりきって応えてくれたようです。

30分ゆったりと、まだ伸ばすと痛いお腹を意識しつつのウォーキング、気持ちいい！

11時過ぎひさしぶり主治医診察、順調に回復している話を私から聞いたうえで、うれしい知らせ。3月12日採血分の腫瘍マーカーの結果が出ました。CEAは前回15.6が10.9に下がり、CA19-9は前回40.9が19.0の正常値まで下がりました。隠れていた3.5セン

チの間膜腫瘍を取ったことや子宮など摘出の結果ですが、まだ病理検査や子宮ガンのステージもこれからですので、様子を見、外科、婦人科医と協議のうえ治療方針を決めていくとのこと。何だかなおったような気分！

今日は昼から5分かゆ。おかげはまだおいしく食べられませんが、おかげを全部食べるようにしています。体力をつけたい！

昨日も今日もお便りや資料感謝。「フォーリンアフェアーズ」もアラブ情勢、読みたい内容です。またYさん、とっても詳しい2月3日新年会報告。ことに3・11一周年福島郡山の県民大会への土曜会を含む日大、芝工大、明大3大学共闘のバス貸し切り。盛大で良い集い、どんなだったでしょう？

Kさんお伝えもせずに手術を終えて元気です。9条の会での田中優さんの講演を聞いて、今私たちが何をすればいいのかよくわかりましたとのこと。少しずつでも確実に変わっていかねばと思っています、と力強いお便り。おおいぬぶぐりもほとけのざも咲きはじめたのですね。庭に咲いた紅梅「やっ」と咲きはじめた」との写真に、ここの塀の外に咲きはじめた白梅を、思わず窓辺までゆっくり歩いて見に行きました。

3月15日 今日から全がゆになりました。

お手紙や資料ゆっくり読めずにいたもの、今日のお便りや資料も届いて読みはじめています。今日は梅の好きだった母の命日、去年の法事の時の写真を掲げ窓からちょっとだけ見える白梅を見ながら、母と対話し父と対話し、穏やかな夕方です。

3月16日 晴の八王子はまだ寒い。10℃~0℃。今日はベランダでゆっくり1000歩歩きました。普通30分で1500歩と柔軟体操のところ、1000歩とシクラメンの花を見て終了。11時過ぎ診察室へ。外科医が残りの抜糸をしてくれました。「明日から入浴もOKですよ」とのことです。でも入浴日は来週なのでまだ入れません。外科医もCEA10.9の結果を伝えてくれて、「3.5センチの摘出した腫瘍(実際4センチ弱)の結果でしょう。まだ下がる可能性がありますよ。子宮ガンの方の深さが気になりますが」と言っていました。

オリーブの樹 第11号

YさんMさんや姉らのお便りを楽んでいます。感謝。Yさんはさらに福島で取材し、意欲的に活動していますね。それに3月10日に猫啼温泉でバスで来た3大学共闘の30余人と合流して、講演や宴会。仕切りはR介らのみごとなものだったとのこと。年期入っていますもの。3・11郡山の球場の会場で加藤登紀子さん大江健三郎さんらの歌やスピーチ、雪か爨が来そうな寒さの中、みな在意気あがった様子。Tも居たし楽しい連帯に私の心も躍ります。姉も面会の時の私の元気な様子や奇跡的なまたガンの摘出を喜んでいます。Mさん3・18反弾圧集いのスピーチや地元の劇団の準備おおわらわな多忙さが羨ましい!

3月19日 週末の雨とうってかわって晴天。土日は寒かったけれど、ずいぶん傷口の痛みもやわらいでいました。

18日は「反弾圧の集い」が京都で開かれたはずですね。安田弁護士、辻恵衆議院議員、高山文彦さんらのスピーチ参加を得て開かれると、友人たちの便りとピラも届いていました。

丸岡さんと夢で会いました。80年代のある組織との打合せの夢で、場所はいつの間にか八王子のグラウンドでしたけど。

今日は手術から2週間、ほぼ普通です。ベランダで1100歩歩いて初の手術後入浴。限られた15分であわただしく入りましたが、とつてもさっぱりしました。午後は婦人科の診察がありました。婦人科のみの担当で腸間膜腫瘍の方は外科から聞くように言いながら、「病理検査の結果、やはり子宮体ガンであった」と伝えてくれました。「広範囲に広がっていたが、筋層にはガンが届いておらず、進行期は第一期のa、つまり一番ダメージが浅い時に手術で摘出できた」とのことです。そのため転移の心配再発の心配はほとんどないようです。「検査から早い開腹手術の決断で命拾いました」とお礼を伝えました。実際八王子医療刑務所に居たので、CTも定期的に撮影してチェックし、これまでと違う子宮ガンの疑いに対処できたのです。遅れていてガンが筋層からさらに悪化していたらまた大変でした。婦人科医の診断にホッとしました。家族友人たちからも腫瘍マーカー数値下がったの喜んでお便りありがとうございます。クラケン「やっぱり魔女だ!」って喜んでくれているってね。

3月20日 春分の日。寒いのでしょうかけれど、窓の外の陽は春のよう。今日は痛みも大分楽になってきま

した。やはり日一日痛みがとれていくようです。3年前の大阪でのガンの手術を思い出せば、やっ手術から3週間たたないと痛みはとれなかったのです。今日の昼膳には大きめのおはぎが一つ。(春彼岸なので「ぼた餅」というべきなのかも)おいしく食べました。

3月21日 まだ1℃-9℃の今日の気温予測。ベランダに出ると晴天なのに北風が冷たい。今日は1200歩歩いて残りの数分は華やかに咲くシクラメンをじっくり見つめつつ運動を終えました。11時に主治医の診察。体調を聞かれ、順調に回復していることを伝えました。また抗ガン剤の副作用の手足のしびれは残っていると伝えると、しばらく続くだろうとのこと。婦人科医の診断を伝えて、腸間膜腫瘍の病理検査の結果を訊ねると、それは外科医から伝えられるとのこと。今後の治療は今週末か来週に採血して腫瘍マーカーチェックを行ったうえで決めるとのことです。CEAなど下がる可能性がありとのことです。本当に開腹手術は命拾いでした。子宮ガンを早期に見つけられたのも、ちょうど他の治療で八王子に居たからですし、開腹によって卵巣腫瘍でなくめずらしい腸間膜腫瘍を見つかったのですから、ありがたいことです。

励ましのお便り感謝。竜子さんの絵手紙なんてみごとな猫柳でしょう。孫の誕生改めておめでとうございます。I子さんお便り感謝。3年前の大阪の手術思い出しておられたとのこと。私もです! みんなに会うこれから!という時、東京に移監になりましたね。今回も手術は順調でしたよ。今は笑ったり咳をするとお腹の切ったところが痛いだけです。Mさんありがとう。I子さんにも手術成功のメール回して下さったのですね。竜子さん、I子さん、Mさん、ありがとうございます。それに3・18の様子もいい集い盛況だった様子の第一報ありがとうございます。

3月22日 まだお腹の中の腸の位置が定まらないせいか、中の切ったところが痛み、今日は寒気。午前中はずっとベッドに居て、午後は2時から3時の春彼岸の法会に参加しました。焼香しつつ丸岡さんら友人たち、家族、パレスチナの友人たちに感謝の想いがわいてきます。点呼前に「オリーブの樹」110号受け取りました。手術のことだけ一番初めにわかりやすく書けばよかったかしら、日記を読んでいくと、突然手術という感じですね。いくつか観植(連合赤軍殉難者が殉教者になっていた)がありますが、編集室の皆さんに感謝。また辻邦さんらの文も載せてほしいところ

です。宮崎先生も「オリーブの樹」読んだところとお便りくださいました。本もありがとうございます。「蝸ノ記」は一気に読んでしまいそう! 明日届いたら週末の楽しみです。

3月23日 朝採血・検尿。外科医の診察は「腸間膜腫瘍」の病理検査結果を伝えてくれるはずと期待していましたがDr.が休み。でも歯周病で歯茎が腫れたので抗生物質をお願いしたら、医務部長がみえて処方してくれました。その折、家族面談の前に本人に病理検査の結果は知らせるはず、「結論は良性的腸間膜腫瘍だったので詳しくは外科医から聞きなさい」と教えてくれました。良かった! 子宮ガンの方は初期だったし、腸間膜腫瘍は良性なら、今回の手術でまた悪化する前に対処できたことになりすねと話しつつ診察終了。

Tさんから本やお便り、宮崎先生からの本3冊。友人たちからのお便りありがとう。午後・夜は一気に「蝸ノ記」読み終わりました。この葉室麟氏も全共闘世代なのですね。今の日本社会では想像もむずかしい武家社会。民衆のひたむきさと権力や「しきたりの力」に源吉や主人公のまわりの敗れる側の人間の道理のたしかさ、人間としての崇高さの余韻で、今の日本を思わず見据えたくになります。

3月26日 今日で手術から3週間。もうずいぶん普通に過ごせます。ベランダで1500歩ウォーキング。走るのはムリだけれど。10時過ぎ外科医の診察。あの不思議3.5センチ腫瘍が良性であったと病理検査結果が出たと伝えてくれました。病名としてはあまりに稀で名称がないとのこと。腫瘍内部には石灰、壊死増殖した血管など詰まっており、良性だがさらに詳しく調べているとのこと。Dr.は「自分の推測だが、腸間膜に腫瘍はあったが、卵巣由来のものと考えてのが妥当ではと思う」「卵巣由来?」と聞くと、子宮外妊娠とか、卵巣由来にはいろんなのがあると教えてくれました。とにかく不思議な腫瘍。その後Dr.は家族面談してくださり、11時半頃、義姉姉二人と面会。「良性でよかったよかった!」と大喜びです。私まで本当にうれしくありがたく、気分はハイです。案じて私に励まされたみなさんにお礼を伝えて!と別れました。

3月28日 今日は布団乾燥。手術前に干したので1ヵ月ぶり。それにシーツ交換(1週間に1回)が重なって気持ちいい。午前10時半、手術後初のグラウンドでの運動。階段も4階から降りても大丈夫。グラウン

ドへの坂道には地を這うようなタンポポの葉。もう少ししたら咲くでしょう。塀の外には満開の白、それに雲のない青空。ラジオ体操のあとウォーキング。汗ばんできました。やっぱり外の空気はうれしい。

午後は主治医の診察。その折CVポートについて、もし腫瘍カーカーが下がってなおつたら埋め込んだCVポートはどうなるのか、再発の可能性も考えてそのままにしておく場合、4週間に一度フラッシュ(洗浄のための注射)しないといけないのはどうなるのか?と訊ねました。「腫瘍マーカーが正常化したら、治療も終り移監になるが、刑務所でフラッシュ管理はムリなのでCVポートは取り外す手術が必要。異物を入れたままでは菌が入ったり危険なため」とのこと。「再発したらまた装着しないといけないのですかね?また同じところのできるのですか?」と聞きました。外科の先生と話をしてみるとのこと。「とにかく今はその前段の腫瘍マーカーの動きをフォローすることが先です」と言われました。

夕方はKさん強い励まし心のこもったお便りと椿の小さな香を送っていただきました。感謝。香りがかいで、香の袋は処分するようにと言われてしまいました(去年の福寿草は宅下げが許されたのですが)。でもお便りの紙一杯にかぐわしい匂い受け取りました。クリスマスローズも福寿草もきれい! お庭の花は落ちついていいですね。デジカメ歌人の春分「夕陽浴び金色の蜘蛛枯れ葉に黄金の巣張る明日は晴だろう」。なつかしくいい歌。刺戟受けてます。

3月29日 死刑執行のニュースが、夕方スポットニュースで入りました。「年度内に」という官僚たちの意向を受け、やはり検事出身の小川法相は「国民の声」を楯にいと簡単に執行しました。「国民の声」といっても、そういうふうに煽動してきたのは政府・マスコミです。国際的な廃止の具体的な現実を国民に伝えずにきた結果に他なりません。「国民的議論」とを言いつつ、一方的な執行。怒りとやっぱりという思いです。

3月30日 今日は「土地の日」。イスラエル政府によるパレスチナの土地強制収用強奪に抗議し虐殺されつづねネストで闘った76年の3月30日。あれからパレスチナの土地を強奪するイスラエルに抗議し、パレスチナに連帯し世界各地で連帯の集いがもられています。日本でも今年も東京・大阪での集いがもたれます(3月31日)。パレスチナの人びとと過ごしたアラブ各地の土地の日の集いを時の国際情勢と共に思い出し

オリブの嶺 第11号

ています。

午後、外科医の診察。あの腸間膜の「不思議3.5センチ腫瘍」についてさらなる調査を依頼しておいた報告が出たので伝えてくれました。Dr.は、腫瘍マーカーのCEAに3.5センチ腫瘍がどう反応しているかを調べてほしいとのことですが、「腫瘍マーカーとは関係ないだろうということで、調べなかった模様だ」とのこと。良性なのでそこまでやってくれないのか？「病理検査の側は『あの3.5センチのものは炎症性、反応性のもので腫瘍とはいえない』ということらしい。内容を検査したところ、手術の縫合糸が入っていたとのことで、真珠のように異物からうまれ、それが原因で腫瘍化したと考えているようだ」とのこと。またまた新説で、Dr.も初耳でよくわからないとのこと。手術した時の糸ということになると、手術したのは15歳の時の盲腸、19歳の時の左卵巣摘出、それに09年2月の大腸2ヶ所と小腸1ヶ所の摘出だと伝えると、Dr.も盲腸は小腸に近いし、15歳19歳からのものか？09年ではそんなになりえないし……と言っていました。結局私も納得のいく「3.5センチ不思議腫瘍」の根拠を確認できませんでした。「良性」ということで詳しくこれ以上はムリみたい。「とにかく腫瘍マーカーが正常値に下がるか、次の血液検査を待って検討しましょう」という結論です。Dr.もめずらしく不思議なものとのこと。

夕方、本や写真や資料たくさん受け取りました。シリア情勢やパレスチナでのイスラエルによる攻撃虐殺のネット記事、メイからの写真や手紙ありがとう。

今日はまたリッジ闘争の仲間一人、檜森孝雄さんが日比谷公園の満開の桜の下で、イスラエルの暴虐に抗議して自決した日。あれからもう10年です。合掌。

4月1日 東京でも桜の開花宣言。年度改まる4月。私も手術の3月を一区切りとして、春のような今日の陽に桜の枝が蕾を付けてえんじ色に輝くのを見つめつつ希望を根拠なく感じています。

4月3日 やっぱ4月に入って寒さはやわらぎましたが今日は春嵐！南向きの窓を雨と風が壊さんばかりに叩いています。全国的に大荒れとか。昨日から新年度に入り、今日はもう少しで蕾を開きそうな桜の枝をゆっさゆっさとゆすっている午後5時の八王子です。でも今日はうれしい面会がありました。本の編集に関する具体的な用事ということで、O先輩の面会が叶いました。「具体的な用事以外は話ができない」との

ことでしたが、許可を得て祝バースデー！などは話すこともできました。

また今日はお花見観桜会が4月11日と決まったとのことで、参加・不参加を問われ「もちろん参加です！」と答えました。その時、写生大会が去年あったのですが、今年は写生、俳句、川柳から一つ選べます。俳句にしてみようかな……Mさんはセミプロですが、私は俳句は未経験。でも考えてみよう！俳句もいいなあ、旧友のYM子さんみたいに。

宮崎先生本のことお便りありがとうございます。Kさんちょうど「吉野の桜に会いに行く」のですね。高野山の宿坊もいいですね。もうその後はすぐに彼の命日ですね。また京都に行ってTさんTさんたちと献杯をしますます元気です！私ももう手術から4週間、人間の身体の強さを実感しつつ、手術前同様に過ごしています。

4月4日 昨夕から夜にかけての嵐は幻のように今朝は陽がさしています。遠くに見える白梅はずいぶん散ったかわりに、塀の外の桜並木の蕾はもう今日明日にも開きそうに風に揺れています。

今日は週1回のグラウンドの運動日。もうほとんど正常な歩みで運動に向かいました。ラジオ体操のあと、見上げる桜の木々はもう今週には開花しそう！足元を見ると嵐で千切れた蕾の小枝があちこちに落ちています。看護師さんが少し大きめの枝をひろいあげて、「水に入れたら咲くかしら」と大事そうにしています。丈の短い小枝はグラウンドの芝生の際に挿してみました。あと一息で咲くところだったのに。きっと小さい花を咲かせるね！とみんな口々に話ながら。でも風がやはりいつもより強く髪をまきあげます。地面にはまだ虫や花を見つけることはできません。でも桜並木の塀の外の桜が蕾を開いて、今にも白い花がこぼれそうです。

Mさんのお便りに小学2年生になる娘と大阪で震災支援ライブをやって、寄せられた義援金を持って被災地宮城県山下町を訪れ、現地の方々と交流し学び、コミュニティ放送のインタビューに応じたりと有意義な旅の様子伝えてくれます。日々のドキュメンタリーのように、辺境にいる私にもわかりやすい。ありがとうございます。SちゃんNちゃんによろしく。

4月5日 まだ最低気温は低く寒いけれど春来るといふ感じです。塀の外の桜並木が満開です。

午後には陽を浴びて、もう三分咲きまであり、春華

やかな気分。

10時過ぎ主治医診察。体調を訊かれ、手術の方はあと快調ながら、両腕上腕が痛くて上げられなくなっていること訴えました。筋肉注射（白血球を増やすため）のせいかと思っただけ違うみたい。一度整形外科の診察を受けるように手配して下さるとのこと。また腫瘍マーカーチェックを4月16日からの週に行い、5月連休前に治療方針を決めたいとのこと。子宮ガンと良性だった「真珠腫瘍」（「不思議3.5センチ腫瘍」に勝手に命名）摘出で腫瘍マーカーが下がれば、抗ガン剤治療も不要だし期待しているところ。

午後房内検査。手紙、支援連ニュースなど感謝。

4月6日 東京は桜満開宣言ですって！八王子はこれからです。

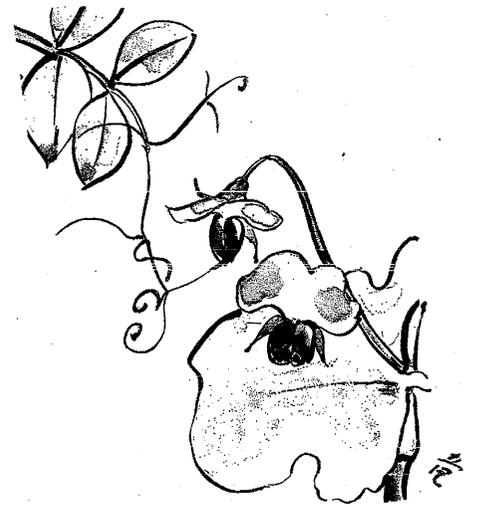
4月8日 八王子も桜の季節。週末の窓から見える塀の外の桜は全体に五分咲き以上です。また目の前15メートルほど先の土手にある枝垂桜も咲きはじめました。

今日は灌仏会。幼い頃大きな枝垂桜の下で、花御堂に背伸びして甘茶をかけたのを思い出させる枝垂桜です。昨日は「土曜会」。ちょうど花見の宴ですね。脱原発も親睦もきつと私も酒の肴になりつつ、みんなの中に顔を出し笑わせてるでしょう。3・11の郡山バス貸切り参加で（寒かった！）我らが土曜会ますます氣勢をあげていますね？連帯！

本やお便りありがとうございます。また「かりはゆく」で3・18の集いの様子もよくわかりました。Mさんお便りありがとうございます。俳句も味わっています。「悪いことばかりなもんか獄の春」。好きな句です。今日は松下竜一さんの「豆腐屋の四季」読みました。全身で書かれ詠まれている姿に涙腺もはずれて共感しつつ読みました。本当に強い人を見ます。

4月9日 塀の外に満開の桜並木。休日に届いたMさんTさんMさんらのお便り拝受。関西の脱原発や3・31「土地の日」の集会のことなど伝えてくれてありがとうございます。デジカメ歌人の「清明」の3首も届きました。「ただ見ていた大屋根の上馬の群れ空の隅より湧き渡り去る」。

4月10日 「はなかみ通信」受け取りました。「戦後思想の自己批判」は深くいい文。他にも私の知らない世界を見せてくれて、何気なくて面白かったりのん



びりします。感謝。Mさん Days Japan の資料受け取りました。またよろしく。

4月11日 今届いた昨日の夕刊にアッバスPLO議長自治政府大統領の記事。12日訪日予定とか。今月中旬に予定されているファイヤド自治政府首相とネタニヤフイスラエル首相との会談で、イスラエルから前向きな回答がなければ、国連総会で「パレスチナ国家」樹立の承認決議を求めるとアッバス発言です。「イスラエルの占領地での入植活動がパレスチナ国家樹立を不可能にしている。会談は二国家を共存させる解決案を維持する最後のチャンス」と主張しています。いまなおネタニヤフ政権と「和平交渉」で時間をムダにするより、国連総会での国家承認を含めパレスチナ国家の実体をつくりあげてほしい。パレスチナの統一したPLOの民主化とPNC（パレスチナ国会）の権限を確立し、全世界に散っている難民含むパレスチナの意志に基づく全パレスチナ人への国としての内実と、その領土の一部にある自治政府の統一した政権運営こそ、イスラエルの一方的な暴力支配に、米国・イスラエル内部の変化を含む新しい力が育つでしょう。今は米国の中東政策はイラン包囲戦争へとイスラエル・スンニ王制国家と連動して、今シーア派たたきの中です。戦争はイスラエルの挑発ではじまるかもしれませんが。それらを予測し越える戦略図を、パレスチナ解放の歴史的教訓として示す時なのですが、アッバスは人民よりも「金持ち国家」に頼らざるをえないオスロ合意以降の路線に沿って弱体化の道にいます。

Tさん、介護福祉の試験合格おめでとう！Yさん、カルロスからの連帯カード感謝。早くチャベスのベネズエラに戻れるといいね。

オリブの嶺 第11号

4月12日 夜明けひさしぶりに月を見ました。下弦近くの月です。

午前中主治医の診察で、「来週18日に腫瘍マーカーの採血検査」と伝えられました。

M子さんお便り感謝。写真入りで3・11円山公園や大阪、それに3・18のなつかしい反弾圧集会の友人たちの写真。Sさん司会？ HさんTさんUさんMさん、みんな健康そう！ Tさんガンもう大丈夫ですね！ いい顔です。また「フォーリンアフェアーズ」をはじめ東京新聞「こちら特捜部」の大量のコピーありがとうございます。人気の記事内容の理由がわかります。

4月13日 今日はお花見の日！ 八王子は今桜満開で、廊下にも花びらが入りこんでいます。今日10時に運動もグラウンド。ちょうど手が上がらない痛みが出たと訴えたので、レントゲンを撮ってくれることになったのが10時！ 「あ！ せっかく満開のグラウンド桜見なかった！」と言ったので、レントゲンが早く終わったら10時半までは遅れて参加してよいと許可を得ました。肩のレントゲンを撮ってからグラウンドへ。まさか満開の桜がちょうどグラウンドの西側に幾本もの木が盛りです。東側は塀の外の桜並木から満開で散りはじめた桜が吹雪いて、ため息が出るほどのひさしぶりの桜見物！ ゆっくり歩いていると飛行機雲が越えていきました。“飛行機雲桜前線越えてゆく”と句も零れます。風もなくいい日。足元にはタンポポが可憐に咲き、運動を終えて戻る坂路にはなんとつくしがびんびんと並んで生えています。うれしいなあ。

戻って昼食12時5分前から花見へ！ 女区18人がグラウンド反対側のプールに降りて行くと、すでに男性も所長以下もみな集まっています。今は防火用水に使われているプールのサイド四方に囲んで座ります。まわりの桜の老木、大木、枝垂桜も満開です。昼食はウナギの蒲焼き、さつまいもとうずら豆の重ね煮に黄桃。おいしいねえと、みなにこにこ。食事が終わって1時間、写生か俳句を書いて提出すること、未了の場合4月26日までとのこと。見廻すとみな絵は苦手！ と俳句を初ひねりしています。私も初ひねりの予定でしたが、桜の美しさに、あとで消せるようにエンピツで桜の枝を描きはじめました。途中でやめて花に見とれたり話をしたり。今日は2回も花見！

午後、Yさんの送ってくれたコピーや資料。それに姉からの便り。

4月16日 今日は整形外科の診察。「肩関節周囲炎」。要は「50肩」。抗ガン剤や手術などの複合的な理由でしようとのこと。腕立て伏せとかは禁止し、使わないようにとのこと。うーん、です。へたなりハビリはやめることにしました。

4月18日 朝食前に採血と採尿。

「救援」「死刑と人権」写真やお便り楽しんでいます。Mさんは岡真理さんの講演を聞き、「死刑映画週間」で韓国映画を見、そして出版したばかりの大道寺将司さんの全句集も購入し、「さわさわ」の仲間とも会えていい日を過ごされたお便り。Kさんは4月10日で夫が亡くなって3年目。彼の植えた白梅が初めて花をつけた写真を送ってくれました。めぐる季節は花と共に思い出を良いものに浄化してくれますね。Mちゃんお便りありがとうございます。またUさんから夕方お便り、3・18のこと。そして6月2、3日の京大でのライラ講演のこと知らせてくれました。それらはもうタラの芽とタケノコが食べ頃ですってね。「よもぎや柿の新芽、栗の新芽、お茶の新芽は天ぷらにすると美味しいのですよ」とのこと。東京より春は早いですね。

4月19日 午後は「花祭り法要」がありました。小さな花御堂をしつらえ、順々に祈り甘茶を掛けます。その後、導師の法話。天上天下唯我独尊、命の大切さの話などでした。“実はずっとサラリーマンで30年前に父を亡くして後を継いで僧侶になったが、それまではギャンブルに熱中、まず競馬で2ヵ月分の給料くらい当たってしまいそれが後をひくことになった”などと話をされたので、みな「おっ！」という感じで真剣に聞き入っていました。

戻って主治医の診察。「昨日の血液検査の結果、CA19-9は16.6で正常値でしたが、CEAがやっぱりまた上がりはじめました。やはりまだがん因子が体内に残っているのですねえ……」と。手術前15.6、手術後10.8だったCEAがまた13.8へ上昇はじめたとのこと。がっかりです。子宮がんも摘出したので、CA19-9は正常化したのですが、CEAはやはりどこかに隠れた癌があるのを示しているようです。5月中旬まで様子を見て、また腫瘍マーカーチェックをし、手術前数値(15.6)より高くなれば、再び抗がん剤治療することに同意しました。「真珠腫瘍」はとったけど、他に長い小腸はすべて見られないので、どこかに巣くっているのかもしれない。

がっかりしていたら資料やお便り。ライラ招請の講

演やパンタさんの演奏など5・30 40周年を迎えるイベントなどの資料になんだか励まされます。「逢えたらいいな」のペペの本もありがとう。2月にはペペはホリエモンの長野刑に公演に行っていたとホリエモンの獄中記にありました。八王子はインフルエンザで中止以来まだです。

Yさんのお便りに励まされます。パス貸切り40人で4月14日、政府の大飯原発再稼働要請に対する抗議で、現地の人350人と共に福井県庁に入り、枝野、知事、町長への抗議のアピールの様子、地元ばかりか人々の切実な脱原発の様子情景も見えるようです。Tさん共々意気盛んな様子「握手できる日まで運動続けたいと思います」との言葉に、早くガンを治さなくちゃ！と、こちらも響きます。他友人たちお便りありがとうございます！ やぎ農場の友人とやぎさんによろしく。

4月20日 朝、担当の人に「夜眠れましたか？」と聴かれました。せっかく手術して下がった腫瘍マーカーがまた上昇してしまったためです。「大丈夫です」と答えましたが、「きつと、あなたの家族、友人たちはがっかりするでしょうね……」と案じてくれます。またこれからよりよい治療と原因をさがさなくちゃ！ まだ花の残る庭を見ながら深呼吸元氣一杯！ でも腕の痛みが……。

4月23日 朝から房内検査。ちょうど休日中届いた速達を朝に2通受け取り、あわてて願筆準備。一つは明日大谷弁護士面会の知らせもう一つは文章作業のことなど。大谷弁護士面会時の「書面筆記用具携行申請」など。夕方姉よりメイ25日面会の知らせ。大谷弁護士が面会月2回枠外の「特別面会」でこれまでやっていましたが、それを確認すると、話を聞いてから判断することと、これまでよりきびそう。

友人たちのお便り。栃木で浴田さんに会え、まったく制限なく話せたとのこと。また岐阜でも「国賠訴訟」のせいか所長が替ったからか、原告とふうさんは会えたみたいです。まだ徳島、熊本はきびしいのでしょうか。[泉水博さんは岐阜刑務所、和光晴生さんは徳島刑務所、西川純さんは熊本刑務所に収監されています編集室註]

4月24日 今日は観桜会の絵か俳句の提出日迫って出しました。絵は消さなくていいというのでそのままにして、句は“競い咲きてやがて一夜の花筏”と“桜の下しばし忘るる癌治療”を書きました。

午後、大谷弁護士面会前に処遇首席が来て、「医療代理人として面会との申請があるが正式な書面がないので、今回は一般面会になる」とのこと。「今回は不可。次回から書類をそろえてから考慮する」とのこと。明日のメイの面会もあり、そちらは5月の面会分ということにもらえる(つまり5月は1回)ので諒解した。面会室に行きまずその話。「医療代理人書面と、この間の手術のこと、マーカー下がり移監の見通しまず聞きたい。再審のことは30分では話せず省いて……」と先生。「マーカーまた上がったのです。ちょうど今日発信可能日で送ったメディカルレポートに書きました」と私。ほんとうにあつという間の30分。話は十分にできなかったけど、元氣な大谷弁護士に会えて、こっちはホッ！ 「多忙な先生にあまりムリは言えないけど、また来てください」と別れました。

4月25日 朝診察。来月の血液検査で、またフォローしましょうと言われました。

午後メイの面会。メイの友人と一緒に面会に来たのですが、やっぱり友人は門前払いでメイ一人です。上がってしまった腫瘍マーカーのこと伝えました。メイもちょっとびっくりがっかりしつつバタバタと面会終了です。房に戻りMさんが送ってくれた「棺一基大道寺将司全句集」受け取りました。これからの連休、心して読みたいと思います。

4月26日 雨。寒さ戻りの春です。今日の運動は雨で中止。今日から5月1日まで室内での運動のみになります。やっぱり屋外がいい！ また今日は2週に1回借りられる官本を借りる日。連休もあって7冊可。あまり読みたい本は備わってはいませんが、仁木悦子など旧文庫本や「千利休とその妻たち」など借りました。ここではニュースは平日はJウエーブの8:00~9:00までのものでフォローしますが、昼はニュースのあと12:15からラジオスイッチが入りNHKを流します。13:00になるとNHK-FMの歌に切り替わりますが、その数秒、10数秒で、今日は13時のNHKニュースの始まりが開けて、「小沢代表無罪」を知りました。当然の結果です。ちょうど読んでいた週刊朝日に検察審査会に検察側から提出した6点の文書がスクープされていて、田代検事の「取調べで言ってもいないことを報告書にした」よりもっと悪質な検察犯罪が出ています。検察一丸の審査会への起訴への誘導の数々です。検察は「起訴しなかった」のですから、その決定がいかに正しいかを検察審査会に

書面証拠として提出すべきです。ところが、いかに小沢があやしいかの数々を並べたてて起訴すべきと誘導しているものでひどい犯行です。検察審査会は、検事の「正義」の独裁を告発するために市民が活用すべきなのに、検察に利用されています。今後は、この審査会に被告側の弁護士も出席する権利や証拠提出する権利、決定過程の公開など改革されるべきことが今回教訓となった裁判でした。私の公判でも検察の一方的な筋書きで公判は終結したので、小沢裁判の検証は検察の独善のメカニズムを明かし直すものになってほしい。

4月27日 届いた朝刊と昨日の夕刊は小沢無罪関連記事が満載。でも政局占いのようなが多い。日本の、ことに民主党の政治家のバラバラで、人気取りの保身ばかりにはあきれてしまいますが、とくに野田首相の諸費増税の「信念」にはあきれてしまいます。政権交代で訴えたことになしからず、自民党化はさらに自民党そのものと合流しそうな諸費増税。「脱原発、消費税の前に、官僚や議員の特権の見直し」をとなくてマニフェストに立ち返ることができれば、多くの国民が願っているでしょうが、そうでない限りは分裂と崩壊ですね、民主党は。

昨日と今日、友人たちお便り感謝。返事出せないでごめんなさい。地域アソシエーションを読んで感想送りたいけど……。がんばってほしい！

4月30日 休みの日は手紙、速達も配布されなくなったので、ほぼ毎日みんなの励ましの手紙を楽しみにしているので、3日お便りなしです。今日で四月尽。もうすぐ立夏。沖縄も4月28日に梅雨入りしたなんて早過ぎる。まだ春のさわやかな風と陽を楽しまないうちに。

Mさんが送ってくれた大道寺将司さんの全句集を読みはじめています。本のタイトルは句からとった「棺一基」です。「『棺一基』は、書名候補の第一番目に著者自身から提出された三字なのである」と序文で辺見庸さんが書いておられますが、この表題に、将司さんの覚悟の想いが読みとれると同時に、この書名によって、この全句集を読む角度を教えられる思いです。辺見さんの序文も跋文もそして将司さんの短い「あとがき」も熱い意志を抑制したとってもいい文です。「棺一基四顧茫々と霞みけり」。何度もつぶやいてみます。また丸岡さんの下獄を知った時の一句「法師蟬声知らぬ友下獄せり」にも胸をつかれる思いです。連休中じっくり読んで丸岡さん一周忌やリッダ闘争四十年を考え

たい。「東アの5・19」も37年ですね。

5月1日 メーデー。

四十周年殉難者追悼の会の報告となる「証言連合赤軍9」受け取りました。感謝。私のあいさつもSさんが読んでくださったのですが、「連合赤軍殉難者追悼の会」となっていたそうですね。これは「単に間違えているのか、メッセージ性があるのかわかりませんので、このまま読ませていただきます」とありますが、「殉教者」は文字数を制限された私の手紙の小さい文字に起因するミスです。40年前の過ちを自照し捉えようとする飾らない会に、今までより多くの方が参加されているのを、3・11以降の新しい時代を拓く思いで読んでいます。同世代の人々ばかりか、連赤の山を辿り、写真を送ってくれたMさん、また赤軍兵士の息子のKさんの共同や参加に感謝と連帯の想いです。手紙いろいろとありがとうございます！カンパも受け取りました。感謝。

5月2日 主治医の診察が午後であり、体調について聞かれましたが、今のところ食欲旺盛で問題ないこと、腕が上がらない「関節周囲炎」以外は良好である旨伝えました。

午後Yさんより土曜会報告。メイのシリア取材訪問のテープをわざわざ起こしてくれて32ページにもなっています。テープ起こし大変で少し発信が遅れたとのこと。いえいえ、貴重な土曜会報告楽しみです。3・11明大、日大、芝工大に加え専修大も加わって4大学共闘で「原発いらない3・11福島県民大集会」に40余名でバス貸切り参加した様子から写真付きの楽しく詳しいレポートです。「明大土曜会」「明大全共闘」の戦もにぎやか。お？約1名MLモヒカンヘルメットかぶってますね!! 誰かな? その次のページに、4月7日経産省前テント広場、「原発よせ(寄席)」が土曜会の集りの前に開かれた報告。柳家三壽ことT、やっぱり羽織を着てハンサムな囃家になってますね。その後弟子共々土曜会へ。

20数名参加で、お茶の水「祭」で恒例の土曜会が始まりました。土曜会に初期から来ている映画学校生が監督になって作った映画「相馬看花」の報告、3・11以降の20km内の状況を撮っているものもですって。それから「放射能汚染から子どもを守る全国ネット」の報告、次回6月2日は明大出身の石田伸子さんが来て話してくれるとのこと。由井さんから米澤さんの被爆体験と運動について語ってもらおうとの企画提案。Oさんから4月3日重信と面会できたことと元気な様

子など。それから次回の4大学共闘は、5月5日の脱原発行動をとR介が提起しています。そしてメイのシリア取材報告。日本の報道とのちがいが、今メディア戦になっていること、アラウィ派とスンニ派の対立という報道と現実とのちがいがいなど。土曜会の面々もポイントで質問があり指摘あり、なかなかいい時間を過ごせたようです。私の20代の時の友人たちとメイがこんなふうな話を一緒に親しく過ごせるのは、とつても私にはうれしいことです。土曜会のみんに、ありがとう。Yさんに深謝。

他に関西からのお便り、Mさんありがとう。5月5日行動の予定(全原発が止まる陽。東京は「さよなら原発5・5(ゴージャス)集会、大阪は「It's a New World 原発後の新しい世界を祝う」サウンドデモ)や、友人たちが大飯原発3・4号機再稼働に対して必死に阻止の闘いをしているようです。Mさんから「行く春やカムイ外伝読みふける」「人民の魂大飯風光る」の句。宮崎先生、安曇野山荘で連休を過ごされているんですね。今、山桜、藤、タラの芽い頃ですが、天候はどうでしょうか。

5月3日 憲法記念日はいつも五月晴れだったように思っていたのですが、今日は雨。今日は憲法を読んで過ごす日にしています。獄に入ってからも12回目。今年も新聞に「憲法9条を活かそう。すべての原発を廃炉にしよう」と市民意見広告が載っています。9つの政策をノートに書きとめました。

昼食時にお汁粉が出ました。小豆にあふれる東拘とちがって汁ばかりですが。窓の外は雨を吸って桜の木々の緑、桐の葉の新緑がみずみずしい。遠くのグラウンドのまん中の芝も緑。連休中、みんなゆったり過ごしているのでしょうか。デモや集会も盛んですね。参加ものぞき見もできない辺境であれこれ想像中。

5月5日 からりと五月晴れ。少し風が強く新緑をゆらせしています。雨のあとにはタンポポばかりか紅紫のと白のツツジが咲きはじめ、春紫苑が一気に茎をのばして一日でいつせいに白い花を咲かせました。黄色の野げしも見えます。ここではもう春の蚊にやられています。房内に入りこむと、夜にさされてかゆくて目覚めます。古い建物で天井が高く、その1匹を見つけれません。

今日は北海道の泊原発が5日深夜に定期検査に入ると、日本の全原発が停止する日。この日を脱原発の初日として、ずっと維持できるでしょうか。全国各地で

脱原発の訴えがさらに広がっているのだ!と、友人たちを思い描きつつ想像しているだけでこちらにも力が入ります。脱原発連帯! そうだ! 今日は立夏だ! もう夏なんて! 五月晴れと五月の風がもう少し味わいたい季節です。5月6日は旧友A君の一周忌、合掌。

5月7日 連休明けです。ひさしぶりにグラウンドへ! 今日は手術後初のグラウンド一周のランニングもしてみました。ツツジ、スズランも咲いています! タンポポがあちこちに咲き、クローバーの花の上に座って咲き終わったタンポポの種子をフーツと吹いて散らしてみました。こんな一時には、いつもそうできなかった丸岡さんや東拘の将司さんらが思い浮かびます。丸岡さんの一周忌は40年目のリッダ闘争と共に、闘うパレスチナの人々、足もとで脱原発を不退転に求めている人々との連帯の心を刻む日としたい。青い空を見ながらそんなことを考えています。

連休明けで友人たちからのお便りも何通も! 感謝! Kさん石解(せっこく、ラン科の寄生種)の美しい写真ありがとう! I子さん、病気じゃなかったのね。よかった! 「ヒメジオンカラスのエンドウナズナグサ摘み摘み急ぐ春堤かな」の一首いいですね。クスクスの本おもしろいでしょうか? Mさん一人芝居5月3日どうでしたか? うまくいったでしょ? 「闘いを明日に控えて春の宵」の句も5月3日向けですね。「かりの会」もきっと今週中受け取れます。5・30の集いやライラ訪日はどう進展していますか? 成功を!

お詫びと訂正

109号

- 2頁7行目「支配理論」→「支配の論理」
- 5頁右列下から16行目「厚生」→「更生」
- 11頁左列9行目「闘に」→「岡に」
- 12頁左列9行目「どんべい」→「呑べい」
- 19頁詩のタイトルから「1971年」取る。
- 20頁注1の5行目「1971年」→「1976年」

110号

- 表紙目次下から3行目「殉教者」→「殉難者」
- 4頁左列5行目「裸木」→「裸木立」
- 7頁左列下から11行目「医務」→「医務部長」
- 9頁左列下から4行目「クローカス」→「クロッカス」
- 9頁右列下から15行目「怪談」→「漫談」
- 15頁タイトル及び下から15行目「殉教者」→「殉難者」

シンガポール・クウェート作戦の時代—アジア連帯(5)

11. イラク政府の強権的動き

その後、10月戦争の停戦、交渉、アラブ領土返還交渉がはじまる中で、「ミニ・パレスチナ国家案」が登場してくる。これは、それぞれの思惑が違っていた。PLOは全土解放戦略に立っていたし、アラブ諸国も同様であった。しかし、現実の力関係の中で、かつて拒否してきた47年のパレスチナ分割案でまとめようとする動きや、それも無理だから67年の戦争以前のラインに戻って、パレスチナ国家を考える国もあったし、ヨルダンなどはパレスチナ国家を認めず、ヨルダンへの併合を考えてきた。欧州や国際世論に訴えて、妥協できる建国の道が国際社会、ことに欧州社民勢力や非同盟諸国からえわれはじめていた。

こうした動きに対して、断固として反対したのは、PFLPとイラクバース党やレバノン共産党、南イエメン社会党などであった。「ミニ・パレスチナ国家案は、全土解放戦略を放棄した詭弁である。徹底して反対する」と立場を表明した。PFLP、イラクバース党は、74年2月26日にバグダッドでミニ・パレスチナ国家に対して、拒否戦線の結成を宣言した。

こうした政治的動きに連動して、イラク当局は権力を持つ治安当局(秘密警察)を中心にして、パレスチナ勢力への介入を強めた。この動きと時を同じくして、クルド弾圧を行い、クルド民族を支援する共産党への弾圧も始まった。

イラクバース党は、PLO傘下にALF(アラブ解放戦線)という、パレスチナイラクバース党系の組織を持っていた。イラクバース党と同じ政策をとってきたALFに加えて、イラク政府は、このミニ・パレスチナ国家路線をめぐって、大きな勢力であるファタハやPFLPと政治的協力ばかりか国家利害に絡む共闘を求めてきた。これまではPLOという統一体を尊重していて、そのような介入は無かったらしい。

ファタハでは、アラファト路線をめぐって、ヨルダン内戦時の総括から揉めていたものが、「ミニ・パレスチナ国家案」をめぐって再燃した。これは、アブ・ニダール本人の話したが、PLOのイラク事務所代表として掌握していたのは、アブ・ニダールだったが、74年、ファタハから分裂した。彼らはファタハの革命評議会(中央委員会のようなもの)の多数派だった。

重信 房子

アラファトが下野するか、指導部人事の変更と政策変更を求めた。アブ・ニダールらの主張によると、アラファトは少数派となると、すぐにPLO名でアブ・ニダールらを中国代表団として派遣させた。その間、電撃的陰謀的に組織再編を決定し、アラファトに反対する人々を役職から追放したという。アブ・ニダールらは、それを知って、自ら多数派を名乗り、「ファタハ革命協議会」の名で分裂、組織独立を余儀なくされたという。

イラクバース党は、アラファト路線に反対していたので、反アラファト派のアブ・ニダールらを支持した。そして、これまでPLOへの分担金としてイラク政府が支払ってきた膨大な援助金をPLOではなく「ファタハ革命協議会」に支出することに決めた。(これがファタハへの分担金かPLOへの分か、結局私にはわからなかったが、毎月百万ドルは超えていたらしい。)

私から見ると、アブ・ニダールは、サッダム・フセインと似たキャラクターの人である。中東地域のリーダーには多いタイプで、日本人のリーダーや英雄と違う。「押しても駄目なら、絶対押す」人なのだ。これは、アラブの英雄のやり方で、引くのは恥ずかしいというプライドがあるらしい。アブ・ニダール派とイラクバース党は、以降共同し、対シリア戦闘にも参加し、対シリアサボタージュや暗殺もやり始めていた。

このころ、PFLPやアウトサイドワークにも、同様のアプローチがあったようだ。イラクにとっては、アブ・ニダールより、むしろ歴史的にもアラブ世界で伝統と人気のあるPFLPやアブ・ハニを支持し、自分たちの政策を実現させたかっただろう。貧しくても、PFLPは政権の個別な利害には与しない。援助は受けるが「子飼」にはならない。イラク当局の要求を断固としてアブ・ハニは撥ね付けていたようだった。

それならば、おまえらの配下の日本赤軍を呼んで来いということになったのだろう。秘密警察長官から、しきりに私への誘いが、大臣Aのオフィスに来る。このイラク対策がきっかけで、アブ・ハニに仕事上で協力しはじめた。

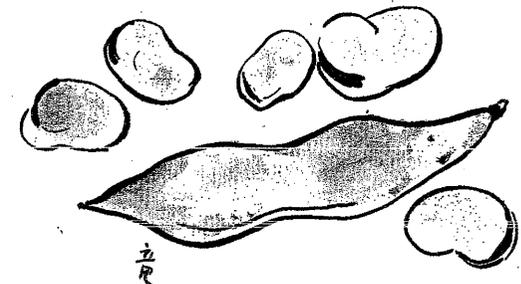
ちょうどドバイ闘争で、アウトサイドワークには不信を持ち、ハバシユらに話して、組織独立を進めよう

としていた時と重なる。PFLP内でも、ドバイ闘争総括でのアブ・ハニ処分が騒がれている中、イラク当局からもまた、厳しい対峙を強いられたアブ・ハニには同情してしまっただろう。数百万ドルの誘いにも、彼は屈することなく、イラク当局に対峙していた。アブ・ハニは、反帝、反イスラエル、反アラブ反動の闘いは誰に頼まれてやるものでもない。また誰かに頼まれて政敵を圧殺することもしない人だ。私は、彼の選択を意気を感じ、対イラク対策では全面的に協同した。

結局、私もイラク秘密警察の長官と会うことになった。「この門に入って、ノーと言って出て来た人はいないよ」とか、「長官の机の所にX線のボタンを押す仕組みがあって、ノーと言ったら、放射能被爆でわからないように暗殺される」などとまじめな顔で心配する人もいた。私たちは、イラクなどさっさと出て行ってもいいが、PFLPやアウトサイドワークにとっては様々な施設もあるだろう。技術やラボラトリーなどの条件も作っていたので、彼らはすぐ出て行くことはできないだろう。「強権」の高官共の様子を知ってみるのも悪くはないと、私は怖いもの知らずの強気だった。

会ってみると、長官はイギリス紳士然とした男だった。目の下に弛んだ皺が思慮深さを示していた。それは笑むと、好々爺の柔らかさになる。また、肩をひそめると「陰謀家」のようにも見えた。バクル大統領はニコニコしているが、彼の部下にはいろんな陰謀家も多いだろう、と話しつつ思った。私たちへの援助の話をした上で、君たちは我々のために何ができるか?と聞いてきた。私は、何も直接的にはできません。反帝闘争を闘っている仲間以上ではないと答えた。それではと、シリアの情報協力が求められた。私は、胸の中でホーチミンの話を思い出していた。「『独立ほど尊いものはない』と、ホーチミンはいつも言っていたという。私もPFLPに倣って、そのようにアラブで闘ってきたつもりは強いのだけれど、無知は「怖いもの知らず」だ。「私はアラブの国や組織の対立には、これまでもこれからも与しない」と答えた。「もし、私があなたの要求を引き受ける人物なら、いつか他の国からイラクのサボタージュを頼まれたら、私は引き受けるということでもあります。だからあなたの要求も引き受けられません。私たちは、どのアラブ諸国にも与しません。反帝反シオニズムの闘いにおいてのみ、戦友教師であって下さい」。

話が終わらないうちに、ふ、ふ、ふと笑って、「もう帰しなさい」と、同行のPFLPの人に眼で合図をしたようだった。コーヒーが出て、お開きになった。



「また来なさい」と、鷹揚に笑っていたが、冷たい眼だった。このまま、アラブ式の別れのハグをした後、背中をズドンとやられるかもしれないという思いが一瞬よぎったが、そんなことはなかった。

以来、執拗な要請は無かったのだが、ハーグ闘争後、私たちの部隊がダマスカスに投降したことで、また問題になった。あれほどマリヤンは中立だ独立だと言いながら、シリアと話がついているのではないかと、いう疑念であった。これには、アブ・ハニも立場なく、怒っていたようだ。バグダッドで、アブ・ハニが指示して闘ったハーグ作戦の結末がアデンではなく、シリアに投降してしまったのだ。もちろんシリアのダマスカスに投降したのは作戦途中で、欧州のフィールドコマンドーのカルロスと日本人作戦部隊の連携が切れた結果、偶然に起こったことだった。連携が途絶えたために、日本人が独自にイニシヤチブを持って交渉し、その上で闘争を成功させていた。そして、カルロス指示のアデン空港まで到着したのに、投降を断られたのだった。仕方なく、ダマスカスに向かったに過ぎなかった。まったく他意は無かった。

しかし、この事件で、アブ・ハニも窮地に立ち、また、私たちへのイラクの対応も変化した。

後に、75年クアラ闘争の準備をアブ・ハニと話し合うために、イラクに行ったニザール丸岡に出国ビザの手配拒否などの妨害もあった。アブ・ハニもまたイラク当局の圧力の前で、他のいくつかの国へ拠点を移しはじめていた。PFLPもアブ・ハニアウトサイドワークも、それに倣ったアラブ赤軍も自分の運命を自分たちで決定する。それは決して譲らない。

これらは、74年から75年に当たる。それでも私たちはイラン-イラク戦争直前まで、バース党とあれこれ対応しつつ、バグダッドを活動拠点としてきた。

私たちのPFLPから独立しようとした組織作りの環境は、こうしたアラブ政治を縫って、ひたすらに進められた。

ステーションとしての党へヨーロッパを戦場とした誤り(1)

1. ステーションとしての党をつくる

ものごとを振り返る時、現在という位置から(つまり歴史の結果から)さかのぼって見るために、錯覚したり見あやまるが多々ある。たとえば、強く印象に残ったことが時間をとびこえて記憶のはじめに出てくるために、時系列をそのように錯覚することもある。これは公判の中で、無罪を証明しようとして何十年前の記憶をほりおこす際に、いくども新聞記事などと付き合わせつつ自覚し、記憶の誤りに気づいたことであった。

また、当時には、主要プレーヤーとして振舞っていた者たちが、すでにずっと前に私たちとの活動をやめてしまったために、主要プレーヤーであったという事実が埋もれてしまっていることもあった。逆に、たとえば、ヨーロッパに関して、私などは当時端役のような位置にいたに過ぎなかったが、その後の私の役割から、当時からリーダーシップをとっていたように錯覚されてしまうこともあった。

おおむね私に対する判決の偏見はそこにあり、無実が有罪とされている。政治裁判と主張する由縁である当時の事実はかなり違う。

在アラブの仲間には心意気と度胸はあったが、地下活動においては素人であった。当時の私たちに手取り足取り教えてくれたのは、在欧の仲間たちである。そしてまた、「ホンヤク作戦」というヨーロッパを戦場とするアイデアを出してきたのも、在欧の仲間たちであった。十月戦争、石油危機の商社批判が出ていた頃に、在欧の商社の支店長を人質として財源を確保しようと考えた計画。これを「ホンヤク作戦」と呼んだ。計画段階で失敗し、多大な教訓を残した。しかし、この「ホンヤク作戦」も、公判ではすべて軍事指導者重信の首謀として、検察は物語を作り上げて、後のハーグ事件の有罪の状況証拠とした。裁判所も、それに倣った。欧州を戦場としようとした「ホンヤク作戦」の誤りの中で、学んだのは私自身であるし、失敗から引き続き闘いを目指したのも私自身である。そのことは間違いない。

そしてまた、そのことで昔の仲間だった人々の責めを問うものではない。そうであるとしても、事実誤認も含めて少し記しておきたい。

すでに述べたように、ハバシュ会議を経て、74年

私たちは、PFLP指揮下のボランティアから、独自の組織へと準備をはじめていた。私の役割は、これまで、PFLPを介して交流してきた人々、主には5つのグループの人々と話合いの場をつくり、独自の統一組織へと再編していくことだった。国内のVZ58と足立さんらの赤P映画の上映隊から生まれたIRF-IC(国際革命戦線-情報センター)、それに在欧の日本人グループと在アラブの軍事部署と非軍事部署の人々である。

当時、PFLPの指揮下の日本人たちは、自然成長的な仲間意識で結ばれていた。そして、各自は、現場のイニシアチブ、当事者主義に基づいて活動していたのである。それゆえ、軍事のことは軍事を担う人が、アラブの政治のことは私たち、ヨーロッパのことはヨーロッパの指示に従うという関係にあった。そしていつでも課題で共同し、PFLPから独立する日本赤軍形成を目指していた1974年当時の話である。

当時、私たちはこうした当事者の現場を第一としてつながっていた。PFLPの支援を中心にして出会い、またお互いの現場の活動の悩みや不足を話し合っただけでなく、活動を相互に支援し合った。政治的一致というよりもとてもプラグマチックな助け合いから始まっている。日本語の書籍一つが移動図書館のように各地をステーションに、他の予想外の人々に届くといった具合に、それは海外の日本人同士、当時は大いに助かった。衛星電話も携帯電話もないし、直通電話は悪いし、申し込み電話もままならず、日本語の書店や日本食料品店もごく限られてしかない時代の話である。お互いが何らかの使命、仕事、学習のために当該地に留まっていた、そこをステーションとして出会い、他を助ける、そんな関係であった。そして、何人かの能力と経験のある仲間がそれらのステーションを往来して情報を伝えたり、調整していた。こうした者たちを含めて在アラブのボランティアと共に、一つの組織を目指したのである。

当然、ネットワーク的な機動的組織として、自分たちの姿をとらえていた。この組織をイメージの概念として、「ステーションとしての党」と呼称していた。当時には上意下達の組織が流行していた中で、私たちはそんなネットワーク的な組織を目指した。上下の関係はなじまない仲間だ。それは、私たちが速断速行動していく現場の必要性和実践協力度でつながりあってきた

姿であったからだ。この自然成長性に形態を与えていく組織が「ステーションとしての党」であり、各地の自分たちの自立した持ち場から、それぞれが自分の部分の役割を全体の中に位置付けなおして一つになっていくこと。「ステーションとしての党」をまず基礎的に作り上げ、そして、世界の、アジアの革命勢力と共同可能な日本の組織をつくること。日本の左翼は国際的地平に立ちきれていない。新しい組織は待っていてもできない。作るしかない。こうして、自負と使命感と傲慢なやる気の者たちが決断したのである。そして、私とその組織化に向けた組織基盤作りを始めた。在欧の仲間たちのこれまでの先行した地下活動、調査能力の実力から彼らが新しい実践に向けた中心を負うことになった。

これらは74年に入ってからの私たちの自立に向けた闘いとその過ちによる手痛い失敗の物語である。

2. ホンヤク作戦の決断

「欧州の中にはたくさんの仲間が待っている。パレスチナの話をしてあげてほしい」、「200%安全を保障する。問題はまったくくない」、バグダッドで私やPFLPをくりかえし説得したのは在欧仲間である。私ははじめてアラブからヨーロッパに旅行することになった。74年5月のことであった。何のために? 在欧の反戦平和を求める日本人や非日本人の仲間たちとの協議や今後の共同のための会合に誘われていた。

また、当時、私たちは組織としてPFLPから独立することをめざしており、そのための行動力も、また財源も必要だった。欧州の仲間たちは私よりも積極的だった。彼らは欧州での作戦アイデアを考えており、「軍事のわかる」在アラブの軍事部署のYも、欧州現地に行って調査状況を見ることになった。さらには、去年の計画で、私は73年のドバイ闘争でリビアに収監されている仲間の釈放問題でリビアに5月に訪問して解決する必要がある。

ドバイ闘争部隊の一員を担った、ラテン・アメリカの組織はパリを中心に活動している。2月から3月にかけて、バグダッドで話合いをしてきた。そこでは、アラブの赤軍がリビア対策の責任を負うことを確認している。そうしたこともあって、リビアから欧州に戻る際に、彼らへの報告のための会議も、在欧の世話役のJの方でアレンジしてくれるという。そんないろいろが重なって、在欧在アラブの仲間「ホンヤク作戦」の結論を出す機会にしよう、ヨーロッパ旅行を決断した。

のちに戒めとなった教訓だが、「出会い」というのは知らないうちにお互いをよく見せたいと思う。PFLPにかかわる在アラブの日本人と在欧の日本人同士はまだそんな関係だったのだと、当時を思い返すことがある。人間同士として出会い、開けっぴろげに話しをし、お互いの窮状を助けてあげたいという思いがそういう結果に結びついていったのだろう。

そして、相手に期待をもつ分、幻想も抱いてしまう。その時、自分が幻想を抱いて相手を見ていること、また幻想を与えていることにも気づいていない。そして、全力を尽くしたいと思ってしまう。私と在欧のJやIとの出会いは72年春からそのようにはじまったと、反省をこめてふりかえっている。しかし、また、みな無私の精神の志のある人たちだった。

当時は無自覚であり、自然発生的であった。私は在欧の人々に期待も幻想ももっていた。また、在欧の人々もアラブのPFLPや日本人に頼めば何とかなると考えている傾向があったと思う。そしてのちに、こんな筈ではなかったという思いで行き詰まった。

「共に一つの組織として闘っていこう」。73年12月のハバシュ会議を経て、「ステーションとしての党」のイメージを語り合い、また、革命のシルクロードとして、アジア・アラブに必要な時に助け合える地下陣形を育てていこう、そんな目標を掲げて、ますますその情熱は強くなっていた。日本人同士としてもっと自由に活動するためにPFLPから独立したい。そのための政治的一致と物質的条件づくりをとおして、仲間たちと、組織として結束していこう、これがIやJたちと一緒に、PFLP指揮下で共同していた私たちの方向であった。

当初、PFLPから自立していく組織作りに向けて軍事的部署にいる者たちには、組織の独立について未だ十分話しをしていなかった。彼らはボランティア参加して新しい。キャンプであるニザール丸岡とはすでに話をしているの、他の人に詳しく伝えねばと感じたのだろう。それに、すでにこうした話合いと計画をハバシュ議長らと討議している頃には、軍事的部署の者たちはシンガポール作戦などPFLPアウトサイドワークの指揮下でバイルートやバグダッドには居ない。在バイルート、バグダッドの非軍事的部署の者たちと在欧の者たちで、独立に向けた話合いを進めていた。

そして組織独立に向けた政治的一致は国内外の仲間には私が連絡しながら、進めることになった。74年夏休み頃にこれまで共同したり関係した人の代表が一堂に会し、総括話合いの上で、ひとつの方向を持った

組織作りへ進むことが私の役割としてあった。

そしてまた、当時の考え方として、アラブ赤軍の柱は軍事であり、その条件をつくりあげていくためにも、軍事的リーダーシップを担うニザール丸岡釈放のためリビア問題の解決は不可欠であった。同時に、独立した組織の財政的保障が必要である。この財政問題の解決のアイデアは、在欧の仲間からまず出されていたので、それを検討していった。彼らはこれまでも調査してきた実績もある。

ちょうど第4次中東戦争で石油危機に乗じた商社の買い占めなどが問題になりだした頃であった。欧州にある日本の商社の支店長を拉致して、金員を要求するというアイデアである。

後に考えれば、アイデアを出したに在欧の仲間の一人はこれまでPFLPと共同して調査していたので、これまでのようにアウトサイドワークにかかわって日本人が肩代わりして作戦をやればよいと安易に考えていただろう。私は当初は、日本で拉致作戦などできなかった赤軍派の経験から、ヨーロッパの資本主義国の管理下でできる筈がないと疑問を述べた。しかし、それは日本人以外の外国人の参加でカバーできる、日本人がやったと思わせない方法はいくらでも可能だ、実際には支店長の近くに友人もいてごく身近な情報が入るので、いくらでも対策はたつと有能なIも言う。Iは創造力と工夫ではいつもPFLPの人々やJを陰らせる才がある。在欧のこうしたアイデアに、私も協力することにした。すでに在欧の仲間が調査をはじめており、作戦名「ホンヤク作戦」と呼ばれていた。もちろんやりはじめてからと実際の現実とは大いに違うというのを知るのだが、作戦というそのパラダイムにはまってしまったように止まらず、走りだした。

まず、在欧の仲間たちも含めて作戦立案という新しいプロジェクトに熱中して、忘れていた大切なことがあった。忘れていたというより意に介さない思想性であった。ヨーロッパにはヨーロッパを戦場にしないという亡命者たちの暗黙の諒解の闘い方があった。パレスチナの「黒い9月」が72年ミュンヘンのオリンピック村襲撃事件で、この不文律を破った。これまでベトナム反戦運動で兵役拒否をした米兵を逃がし、匿ったり、南アのアパルトヘイトの闘いを支えたり、それらは非公然であるばかりか、非合法の活動をも余儀なくされるのだった。武器の搬出入、やむを得ぬ身分証の確保などなど。ベトナム反戦、ラテン・アメリカ、アジアの軍事ファッショ政権に対する闘いの支援や人種差別主義への怒り、それらが欧州における非合

法活動の正義性を支えていた。

そのため、第三世界の亡命者たちは、一定人権の守られるヨーロッパに武装闘争をもちこみ、欧州を戦場とすることをさけた闘い方をしていた。また、そして欧州の革命グループの中には、第三世界支援のために、「自国帝国主義打倒は合法的分野に限って闘う」というやり方を決めている人々もいた。ある武装闘争グループは別の「大衆団体」を作って、別のルールで支援していた。当時欧州では社民政権も保守政権も、フランコを継承していたスペインなどをのぞいて、人道上的見地から政治亡命を認めていた。そのためラテン・アメリカ、アジア、アフリカなど、第三世界の革命家たちは、自国の軍事政権からのがれて欧州で活動する人も多かった。チリのアジェンデ政権に対する軍事クーデターのあと、米国CIAと組んで勢いづいたラテン・アメリカの軍事政権、アフリカ、アジアの軍事独裁に対して、ヨーロッパの政権は亡命者たちを寛容に迎えた。

パレスチナは少し特殊だった。「ユダヤ人問題」の原罪意識をのりこえて、パレスチナ連帯を行なってきたのは、共産党、新左翼の新しい連帯の分野だった。67年の中東戦争の敗北から立ち上がったパレスチナ人自身による祖国解放の闘いと、パリの5月革命の68年以降の流れとがつながって、連帯が人民レベルで生まれていった。

しかしPLO自身、一方にゲリラ戦を闘いつつ、他方でアラブの国家外交と共存していたので、アラブ・パレスチナ問題は武装闘争もアラブの各国政府と相互依存関係にあった。また、パレスチナ人は不当にも国を持たない「難民」の位置に置かれていた分、国の発行する旅券はない。国連の難民認定の証明書や滞在国の渡航証があるばかりだったので、各国アラブ政権がパレスチナ人の旅券にあたる身分証を提供していた。これらは、人道ながら必ず政治的な傾向を持っている。例えば、イラク政府はイラク支持のパレスチナ人にイラク政府発行の渡航証ばかりかイラク旅券を提供する。イエメン・シリア・リビア・アルジェリアやサウジアラビアまで、自国の政策に近い人々やグループの要請に、旅券を渡航証明書のように援助していた。パレスチナの政治家はどこかのアラブ諸国の外交旅券で活動することも多かった。このようにパレスチナの武装闘争はアラブの政権に守られる政治的側面があった。

72年のミュンヘン・オリンピック闘争で、「ヨーロッパを戦場としない」とするこれまでの政治的配慮が壊れていった。それ以降、欧州の国々から政治的に

パレスチナ問題を解決すべきだという流れが大きくなったが、欧州を戦場とする闘いははじまってしまったのは事実だった。

こうした政治的環境の中で、当時在欧のパレスチナの武装闘争グループと亡命者たちの結びつきは慎重になされていた。当該亡命国の政権打倒の武装闘争に加担すれば、亡命権を失うという条件にある。第三世界の人々にとって、人権の保障されていた欧州を戦場として闘うことは、亡命中の非欧州の解放革命運動の多くの活動家を危険にさらすことになる。そうなれば、以降亡命権などの既得権を失いかねない時代を導いてしまう。そうしたことに、私たちは無自覚であった。そしてまたのちに、そのとおりの厳しい時代に到らしめてしまったのであった。

とにかく、「欧州を戦場とする」ことの意味を検証する政治判断を怠った。そうした配慮を自覚し得ない思想性であったし、在欧の仲間と在欧の実情を知らない在アラブの私たちの二人三脚の「ホンヤク作戦」と呼ばれるヨーロッパ戦場化への旅ははじまってしまった。今だから歴史をふりかえって、そのように見ることができるのだが。

3. 欧州への旅リビアへの旅

私たちはバグダッドからウィーンに到着した。1974年5月のある日のことである。私とLは、直前にバグダッドでKとJにレクチャーを受けたとおりの指示に従って、欧州の地ウィーンに降り立った。

オーストリアは当時特殊な国際環境にあった。西側と東側の諜報活動の地下攻防のせめぎ合う地点であり、また、平和共存の地点としてあった。オーストリア政府はどちらの擁護にもゆるやかな対応を決めており、また、アラブ・パレスチナ問題に対しても、「私はユダヤ人である前にオーストリア人だ」と述べたユダヤ系オーストリア人の首相クライスキーを中心にして、敵対的ではなかった。

ミュンヘン・オリンピックでのアラブゲリラの攻撃以来、軍事的な動向には警戒していたが、パレスチナ戦士を拘束しても尋問や追放で政治的に対処していた。その分パスポートコントロールもゆるいし、当時はまだ日本人に対しての警戒もあまりなかった。日本人に対する警戒がひかれるようになるのは、パリ事件やハーグ事件以降となる。当時の欧州のどの国に入ったら安全かなどは、在欧の仲間たちが身をもって経験していることである。

ウィーン空港で在欧の仲間たちの迎えを受けて、無

事の入国を喜びあった。私やYの活動は在欧日本人たちが計画をすでに立てていた。食事をする間もなく「ホンヤク作戦」調査班はYを連れてドイツに向った。私と同行者はまずリビア行きの用件をすませる必要から他の方向に向かった。私は当初「ホンヤク作戦」については話もよく聞いてはおらず、私の役割とは考えておらず、実情も知らなかった。それでも、在欧の人々の調査に在アラブの軍事担当の日本人Yが加わってやってくれたら、それでうまくいくのだろうという風であった。

バーシムたちが築いてきた軍事的部署にまかせればうまくいくのだろうといった程度で、あなたまかせであり、無責任であった。私には夏にむけた組織作りの役割があり、リビア対策や、在欧の会うべき人々との会合がある。それが私のヨーロッパでの仕事と考えていた。私に軍事的な役割が求められたり、責任を負うのはこれまでもなかった。「ホンヤク作戦」についても、これまで同様に自分が担うとは考えてもいず、それはYにまかせたといったところであった。今から考えるとそこに大きなズレがあった。

各々が自分は部分を担っていて、誰かが全体の責任を取ると考えていたのだと思う。当時組織というものではない分、積極的にかかわるものがイニシアチブを持ち、進めていくという風であった。しかし、後に加わった者から見れば、指揮であり指示があるものと思ってしまうのは当然だったのだろう。先にイニシアチブをとっていた者が指示を出す。その指示も全体の必要性や目標から計画的に決められた方針とは言い切れない。その時、その場の部分の必要性からアイデアが生まれ、指示や調査しているにすぎない場合がある。欧州のリーダーシップや人脈は、何かをやるとうするたびに、集まっては共同する友人たちだった。それ以上の組織というものではなかった。私が描いていたヨーロッパの仲間たちと実態には大いにズレがあることを学習する旅となった。

私は欧州からまずリビアへと向かった。リビアにはベイルートから日本人技術者たちも来て、トリポリで合流することになっていた。欧州側からも私と友人技術者で、リビアに入った。

当時はちょうどカダフィ大佐がカダフィ理論の「緑の書」を書きだしたころであり、独自のイスラム革命路線を表明していた。私たちもリビアとの技術や貿易の話もあったが、リビアの要人たちと革命について討論もした。彼らは、毛沢東の著書に興味を示し、いろいろ意見を話し合った。それでも貿易や討論よりも、

とにかく早くPFLPのドバイ闘争部隊の解放を求
ることを第一にしぼっていった。他の話はその後深め
ようと。

リビアは、一つは当初ドバイ闘争を非難し、「裁判に
かける」と宣言してきた。くりかえし執拗に働きかけ
てくる日本政府と大使館に対しても、ずっとそう言っ
てきた。それをどう変更して大義を立てるのか、気にな
るらしい。また、もう一つはサグトの裏切りによっ
て、リビア・エジプト国家統合の夢は崩れつつあった。
すでにリビア自身が反共を言いながらジャルード首相
をソ連に送って、武器を求めようとしている。文化革
命の流れからPFLPとの対決拘束をどう終息させる
のか。対外上行政上もリビアも大義や理由が必要だっ
た。

当時のリビアはイスラム文化革命の大転換で共和
国再生期にあり、リビア国内では実務のどれもこれも
とどこおっている。整合性もうまく立たず、旧官僚か
ら新しい革命の行政機構への転換は混乱しているよう
だった。ことに、旧来型の官僚をやり玉にあげて職場
から追放するなど、中国の文献まで学習しながら、文
化革命の最中である。一つのことが人民から告発され
ると、あちこち矛盾して大衆集會となり、すぐに解
決にならない。権力中枢がOKといっても、実行には
あれこれの混乱しているのもわかった。全人民集會で
話をすると、エジプトとの関係をどうするか話してい
る時に、隣人とのけんかや親子の揉めごとがいつの間
にか会議の中心になったりするらしい。それでいいか
ら全人民地域集會で、人民参加の国づくりを進めよと、
カダフィ大佐らは奨励しているという。

リビア当局は、すでにドバイ闘争部隊の解放は決め
ているようだったが、「公判」を公言したメンツをどの
ように整理するか、まだつめが終わっていないようだ
った。「とにかく、もうすぐだ。手続上の問題」と言わ

れて、待つしかなかった。本当は全員をこの5月のリ
ビア来訪で連れ帰るつもりだったが、スムーズにいかに
なかった。可能であるとしても、今更日本人だけ連れ
帰るわけにはいかないし、ニザール丸岡も私たちが、
それは望まなかった。旅券などの実行部隊の移動問題
についても、リビア側が渡航証を発行する手続きはで
きるので、私たちがそれらを準備する必要はないと
いう。すべてOKというのだから、とにかくPLOと
もう一度出直して押すしかない。

私たちは用心して他のプロジェクトを進めずに、釈
放後の協力を約束して派遣してきた技術者も帰ること
にした。そして、ドバイ部隊のニザール丸岡と、これ
までのことこれからのことステーションとしての党の
組織独立に向けた進捗を伝え、話し合った。アウトサ
イドワークから軍事的部署も独立して、他のボランテ
ィア日本人と組織を作る計画や方法を話し合った。

そして、ラテン・アメリカ人で、妻を失ったAから、
彼らのブラジルの組織リーダーアシェンへの手紙を届
けてほしいと託された。ドバイ闘争部隊の男Aのラテ
ン・アメリカの組織の中核はフランスに本拠地をおい
ていた。すでにリビアの帰りにフランスで彼らのリー
ダーとは会う手はずをJが整えていたので、それを諒
解した。

リビアの海はペイルートの地中海とつながってい
ながら、違った深さを青くたたえていて美しい。人の
手が加わっていない。「世界の海岸をあちこち行ったが、
リビアのトリポリからベンガジへと向かう海の青く美
しい自然は世界一と言ってもいいくらいだ」と、技術
者の一人が何度もくり返していた。リビアにも、海岸
に埋もれていた2000年前のローマ時代の都市や多
くの遺蹟や「革命聖地」がある。あれこれの招待を切り
上げて、私たちは欧州へと急いだ。

(つづく)

後書

重信さんの2回目の癌摘出手術は、第1回目と同様、お腹を開いてから病の実情を発見するといったラッキーな展開に助けられて、手術は成功したかのように見えました。確かに一面ではそうでしたが、また腫瘍マーカー値が上がってきているとのこと。その根拠は未だわかっていません。追いかけてこみたいで、重信さんもきつと不安なことでしょう。丸岡さんのケースのように、刑務所がそれらを率先的に採用してくれるのかどうかには疑問が残りますが、癌病治療には新しく目覚ましい治療方法が見つまっているという情報もあります。どうぞ全快を勝ち取る希望に向かって進みましょう。共に。Y

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター気付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

銀行口座 三井住友銀行 赤羽支店 226-3687269 オリーブの樹

頒布価格 500円

「正誤」表

第 111 号

- ① 2P 短歌4番目 桜咲たり獄ハ王寺→～獄ハ王子
- ② 7P右側2行目 ～満開の白*→～満開の白梅
- ③ 7P右側6行目 腫病カーガー→腫病マーカー
- ④ 11P左下から2行目 ～やがて一夜の花筏→やがて一布の花筏
- ⑤ 12P(4/27)5行、7行目(2カ所) 諸費税増税→消費税増税
- ⑥ 12P(5/1)9行目(8行) ～起因するミスです→起因する入力ミスです
- ⑦ 13P(5/7)下から9行目 Kさん石解→石斛
- ⑧ 14P 「11.イラク政府の強権的動きから、～(右列の下から16行目)～暗殺もやり始めていた」(トル) 前号 110 号で掲載したもののダブリ。
- ⑨ 15P右9行目 これには。→これにはアブ・ハニも
- ⑩ 16P左上から 20 行目 ～主張する由縁である→主張する由縁である。
- ⑪ 16P 下から 16 行目 電話は悪いし→電話は無いし
- ⑫ 16P右下から 2 行目 速断速行動→速断即行動
- ⑬ 17P右下から11行～10行目 伝えねばと感じたのだろう
→伝えねばと感じなかつたのだろう。
- ⑭ 18P左下から18行目 「ホンヤク作戦」と呼ばれていた
→「ホンヤク作戦」と呼ぶことにした。
- ⑮ 19P左下から 21 行目 私とLは、直前に～→私とYは、直前に～